

Book Review

デンタルカリエスエッセンシャル 原著第4版

Edwina Kidd・Ole Fejerskov 著
大庭俊太郎・伊藤直人 訳



Reviewer

山本浩正 Hiromasa Yamamoto
(大阪府豊中市・山本歯科)

B5判, 192頁
カラー
定価 8,360円
(本体 7,600円+税 10%)
医歯薬出版刊



こっそり打ち明けるが…実はカリオロジが好きである。“あなたの好きな歯科領域ランキング”ベスト3には入る。これは“あなたが選ぶ卒業ソングベスト10”を見ていて、『いつになったらベスト3を発表するんだ!』とコマーシャルにイライラするくらいの上位ランキングである。

細菌学から眺めたり、疫学から眺めるのもいいが、物理化学的な解説には理系魂がくすぐられる。また、歯周病患者さんの長期メンテナンスでは根面齲蝕と対峙しなければならないので、現実的な要請もある。そこで昔からカリオロジは“こっそり”学んで楽しんでいる。歯医者がむし歯をこっそり学ぶのも変な話だが…。

私が“アンラーニング unlearning (学びほぐす)”という言葉に出会ったのは、ずいぶん前のことだ。詩人の谷川俊太郎氏が説明されていた言葉であることは、憶えている。詩集ではなく、もしかしたらインタビュー記事だったかもしれない。“学ぶ”の後に“学びほぐす”が待っているのかと思うとワクワクしたし、自分の次元が一つ上が

るような期待感に身を震わせた。ただ、個人的には“アンラーニング”は単なる“上書き保存”ではなく、『既存の知識やスキルをいったんカッコに入れて、別の視座で俯瞰する』と勝手に拡大解釈している。そうでなければ、先人の足跡を上から踏みつけるようなことになってしまうからだ。

本書はそんなカリオロジとアンラーニングの両方を体験できる、“贅沢な”仕掛けになっている。もちろん、カリオロジ初学者にはラーニングとして楽しんでもらってもいい。私がカリオロジを学び始めた頃にはこのような本はなかったのだから、私から見ればまさに“贅沢品”である。羨ましいというより…悔しい。なので本心としては、初学者は読まないでほしい。『本書を読む愉悦を享受できるようにしてから読んでね』という気持ちである。

アンラーニングの実践書であるにもかかわらず、カリオロジの“今”をこんなにコンパクトにまとめられたのは驚きだ。言葉も簡潔でキャッチーである。これは訳者の努力が大きいと思

われる。たとえば、『齲蝕はフッ化物の欠乏によるものではありません』という表現が、本文中に何度か出現する。これは齲蝕を予防するために、ついつい何かを足し算しようとする構えを自制し、糖を引き算する方向に誘導する戦略的伝達方法である。実際、著者は無意識下での遊離糖摂取には、強い警鐘を鳴らしている。

本書『Essentials of Dental Caries』は4版を重ね、Sally Joyston-Bechalに替わってOle FejerskovがEdwina Kiddと共同で筆をとっている。きっと著者自身がアンラーニングを実践しながら、ヒリヒリと伝わるパッションと前のめり感で書き上げているのがわかる。そして、それがリアルに伝わる影には大庭俊太郎氏と伊藤直人氏による秀逸な翻訳があり、影でありながら控え目な光を放っている。もちろん、伊藤直人氏のカリオロジに対するパッションは、『カリエスブック』が本書と地続きであることで証明済みである。あっ、これ以上書くと私がカリオロジ好きというのがバレるので、このへんで。